

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

| | | |
|-------|----------|---------|
| 6月前半着 | 1,066.75 | (3.50) |
| 6月後半着 | 1,062.25 | (4.50) |
| 7月前半着 | 1,058.75 | (5.00) |
| 7月後半着 | 1,056.00 | (5.25) |
| 8月前半着 | 1,053.50 | (5.25) |

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価

| (千葉到着ベース) | COUNT30日前 | COUNT45日前 |
|-----------|-----------|-----------|
| 5月後半着 | +9.25 | +5.25 |
| 6月前半着 | +6.38 | +3.25 |
| 6月後半着 | +4.50 | +1.88 |
| 7月前半着 | +3.38 | +1.00 |

算出時の原油価格(ドル/bbl)

| MONTH | JUN |
|-------|--------|
| WTI | 109.44 |
| BRENT | 123.04 |

本日午前 10 時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

週末 15 日のナフサ C&F JAPAN は 1053.625 ドルと小反落、クラックスブレッドは小幅続伸。堅調だった欧州市場の流れを受け、アジア市場も引き続き強めのムードで始まった。アジアのファンダメンタルズはタイトな状況が続いており、供給不足の状況にある可能性が高い。エンドユーザーの 5 月後半玉のスポット調達本格化すると、さらに引き締まることも想定される。また、欧州市場に余剰玉が見られず、アジアの供給不足を補える状態にはないため、市場では期近玉を中心に売り手が見られずに強気ムードが続いている。一方、ナフサ価格が 1050 ドルを超えるなか、オレフィン価格が一向に上昇していないことから高値警戒感が強まっている。また、水面下で、エンドユーザーが相当量のスポット調達を終了しているとの見方もある。プラッツタイムは、買い先行で始まるも纏まった売りも見られたことで、クラックスブレッドは小幅上昇にとどまった。今週のアジア市場は、引き続き欧州市場の動きに左右されるだろう。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

| | ナフサMOF価格 | | | 速・確報値/(前日比) 円/KL | 国産ナフサ価格 | |
|--------|---------------|-----------------|---------------|---------------------|-----------------|-------------------|
| | ドル/MT | 予想値/評価値 ドル/円 | 円/KL | | 予想値/評価値 円/KL | 速報値/(前日比) 円/KL |
| 10-Oct | 700.07 | 83.42 | 40,587 | 40,712 | | |
| 10-Nov | 747.36 | 81.39 | 42,273 | 42,222 | | |
| 10-Dec | 796.85 | 83.61 | 46,305 | 46,634 | | |
| 10-4Q | | | 43,079 | 43,101 | 45,100 | 45,100 |
| 11-Jan | 857.45 | 82.91 | 49,410 | 49,202 | | |
| 11-Feb | 882.61 | 82.33 | 50,505 | 50,204 | | |
| 11-Mar | 891.37 | 82.49 | 51,101 | (±0) | | |
| 11-1Q | | | 50,120 | | 52,100 | (±0) |
| 11-Apr | 983.37 | 82.45 | 56,348 | (1) | | |
| 11-May | 1,043.17 | 83.14 | 60,280 | (317) | | |
| 11-Jun | 1,068.04 | 83.15 | 61,725 | (176) | | |
| 11-2Q | | | 59,451 | | 61,500 | (100) |
| 11-Jul | 1,064.54 | 83.17 | 61,534 | (165) | | |
| 11-Aug | 1,060.55 | 83.19 | 61,316 | (185) | | |
| 11-Sep | 1,057.41 | 83.21 | 61,148 | (212) | | |
| 11-3Q | | | 61,332 | | 63,300 | (200) |
| 11-Oct | 1,055.04 | 83.23 | 61,028 | (231) | | |
| 11-Nov | 1,053.00 | 83.26 | 60,931 | (244) | | |
| 11-Dec | 1,051.07 | 83.29 | 60,841 | (250) | | |
| 11-4Q | | | 60,933 | | 62,900 | (300) |
| 12-Jan | 1,049.19 | 83.32 | 60,759 | (240) | | |
| 12-Feb | 1,046.77 | 83.37 | 60,650 | (243) | | |
| 12-Mar | 1,043.40 | 83.41 | 60,486 | (267) | | |
| 12-1Q | | | 60,632 | | 62,600 | (300) |

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前 10 時時点での理論上の計算値(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は 0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前 10 時時点の 11 年 1Q 国産ナフサ予想値は 5 万 2100 円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は上昇が想定されるが、為替通関レートが円高に振れたことが勝り、MOF 評価値は値を崩すことが見込まれる。11 年 2Q 国産ナフサは前営業日比 100 円安の 6 万 1500 円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

| | | close | chg |
|-------------|-----|--------|---------|
| NYMEX / WTI | MAY | 109.66 | (1.55) |
| | JUN | 110.22 | (1.52) |
| ICE / BRENT | JUN | 123.45 | (1.45) |
| | JUL | 123.12 | (1.48) |

Oil Products(セント/gal)(ドル/MT)

| | | close | chg |
|---------------------|-----|----------|----------|
| NYMEX / RBOB | MAY | 328.92 | (5.45) |
| NYMEX / Heating Oil | MAY | 322.42 | (3.52) |
| ICE / Gas OIL | MAY | 1,024.50 | (12.00) |

[マーケットコメント]

週末15日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに上昇。良好な経済指標を受け、先行きの米経済に対する楽観的見方が広がり、原油相場は買い優勢の展開となった。需給引き締まりが懸念されている RBOB 期近5月限は直近高値を上回り、期近ベースとしては2008年7月17日以来の高値を付けている。

時間外取引では、ドル高などを材料に手仕舞い売り優勢となったが、通常取引開始後は切り返す動きに。この日発表された4月のミシガン大消費者信頼感指数は69.6と前月の67.5から上昇し、市場予想の68.5をも上回った。前月が2009年11月以来の低い水準であったこともあり、3月からは回復したが2月を依然下回っている。ただし、市場予想を大きく上回ったことで、景気下押しへの懸念が後退した。また、3月の鉱工業生産指数は前月比0.8%上昇と5ヶ月連続で上昇し、こちらも市場予想を上回った。このほか、4月のNY連銀製造業景況指数が21.7と、2010年4月以来の高水準となった。市場では低下が予想されていたが、予想に反して5ヶ月連続で前月水準を上回った。これら先行き経済に明るい兆候が見られた複数の経済指標を受け、景気回復に伴う石油需要の増加への期待感が買いに繋がった。株式市場でも同様に買い材料視され、株価上昇によりリスク選好志向が意識されたことも、原油相場にとってはサポート要因となった。

CFTC発表によると、12日時点のファンドのポジションは、WTIは24万3261枚の買い越しと、前週から買い越し幅を8890枚縮小させた。ショートポジションは前週とほぼ変わらずでロングポジションが減少しており、価格下落局面で利食い売りを先行させたことが窺える。石油製品は、RBOBが6万2378枚の買い越しと、前週から買い越し幅を3824枚縮小。原油同様、利食い売りを先行させると同時に新規売り建ちしている。ヒートンオイルは、2万7590枚の買い越しと、前週から買い越し幅を4215枚縮小。こちらは売り買いともに玉整理中心のなか、手仕舞い売りを進めている。なお、天然ガスは21万0449枚の売り越しと前週から売り越し幅1万0079枚拡大。

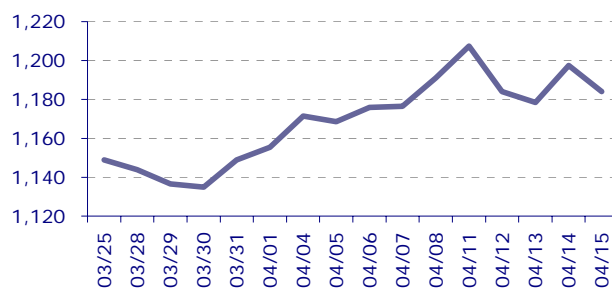
トピックス

「前週のベンゼンマーケットレビュー」

前週のアジアのベンゼンマーケットは、FOB KOREA1200ドルを挟んでの動き。他の芳香族は、トルエンは上昇基調継続から週初に1450ドルを上抜いたが、その後は決め手材料難から方向性の乏しい動きとなっている。一方のパラキシレン(PX)は、前々週後半の戻りが一巡し、1600ドル割れ水準へと再び値を崩している。中国のポリエステル需要が引き続き減少しており、誘導品である高純度テレフタル酸(PTA)からの引き合いは乏しい状況にある。

アジアのベンゼン市況は、前々週の戻り歩調を継続し、週初には3月中旬以来となる1200ドル台を示現した。川上原油相場が騰勢を強めたことやナフサ市況の急騰もあり、相对比较から割安感が意識されるとともに先高値から中国で仮需による買いが先行した。韓国の麗川NCCが、ベンゼン生産能力20万トン/年のアロマプラントを定修入りさせたことも支援材料に。しかし、その後原油相場が急落したことで、市場のセンチメントは弱気に傾き、上値重い商状となっている。マージンが回復傾向にあった主要誘導品スチレンモノマー(SM)も上げ渋りの様相となり、川下サイドからのコスト見合いでの引き合いも一服した。さらに、中国人民銀行がインフレ抑制に向け、今年2回目の利上げを実施したことも圧迫要因として影響している模様。利上げによる需要低下見通しは川下誘導品にも及び、カプロラクタム(CPL)市況は大きく下落している。震災後に操業を一時停止した日本のプラントでの再稼働も見られており、需給タイト感が後退していることで、市場のムードは弱気に傾いた。総じて弱材料が目立ったことで、軟調気味に推移したが、週後半にかけては再び原油相場が切り返したことで、値を戻す動きとなっている。ブルベア要因がまちまちであり、目先は原油相場主導の動きとなろう。なお、対ナフサとのスプレッドは、縮小傾向を継続して150ドルを割り込んでいく。ナフサとの相对比较からは割安感がある。

Benzene FOB KOREA(ドル/MT)



「高難燃性と高耐熱性を兼ね備えた変性PPE発泡ビーズを開発 = 旭化成ケミカルズ」

旭化成ケミカルズは15日、独自の樹脂開発および発泡加工技術により、世界初のUL94規格V-0を達成した変性ポリフェニレンエーテル(PPE)発泡ビーズ製品を開発したことを明らかにした。発泡ビーズを成形することで得られる発泡体は、樹脂に比べ軽量かつ断熱性を有する材料として、断熱材や緩衝材用途として幅広く用いられ、近年では自動車分野にてバンパー衝撃吸収材や自動車シートのコア材、フロアマット嵩上げ材等で実用化が進んでいる。一方、電子機器分野に関しては、樹脂に要求されるUL94規格V-0に適合する発泡ビーズが存在せず、難燃性と耐熱性の点から部材としての実用化が進んでいなかった。今回、同社独自の発泡加工技術を駆使し、非ハロゲン化組成において世界初となるUL94規格V-0を満たす発泡ビーズ開発に成功した。

Daily Market Report

「ペトロケムとの合併で新石化コンプレックス建設を計画 = SIIG」

サウジアラビア産業投資グループ(SIIG)は、同社50%保有の国営石油化学(ペトロケム)と合併で、2012年に石油化学コンプレックスの建設を計画している。投資額は12億ドルで、今後9ヶ月以内に合併企業が設立される見通し。ペトロケムは現在、約130万トンの石油化学を生産しており、同社の市場価値は29億ドルとみられている。サウジ基礎産業公社(サビック)やサウジ・カヤン石油化学の市場価値は約30億ドルであることから、今回の合併によりサウジアラビア最大の石油化学会社が出来ることとなる。なお、SIIGとシェブロン・フィリップスの合併サウジ・ポリマーは、600万トン/年規模の石化製品生産を第4四半期に開始する予定。

「合成ゴムプラントの拡張及び韓国タイヤと長期供給契約 = ランクセス」

独特殊化学大手ランクセスは15日、米国テキサス州オレンジの合成ゴムプラントを拡張することを明らかにした。1000万ユーロを投じて2012年第3四半期の稼働を予定。ソリューション・スチレン・ブタジエンゴム(SSBR)およびネオジウム触媒ポリブタジエン(Nd-PBR)の生産能力を2万トン/年増強する。また、約2000万ユーロを投じての、米国、ブラジルの拠点での年間計5万トンの増強計画のひとつであるオレンジでのデボトルネッキングによる1万5000トン/年のNd-PBRの生産能力の増強が完了したことも判明した。この他にランクセスは、韓国タイヤとの調印式を行い、SSBRとNd-PBRの2011年から5年間の長期供給契約を締結したことも明らかにした。2007年5月締結した5年の長期供給契約を1年前倒しで更新し、次世代のタイヤの製造に不可欠な高品質のブタジエンゴムを持続的に供給することになる。